

開会式でのバルーンリリース。カラフルな風船が空を舞った。(火の山)



小・中学生による子ども神楽で、「八雲払い」を披露。龍を仕留めると大きな歓声が沸いた。(波野)



2年ぶりの夏まつり 阿蘇の夜空に咲く 笑顔と大花火

豪雨災害の影響で2年ぶりの開催となった阿蘇の夏祭り。8月15日はなみの高原納涼まつり、8月19日・20日には大阿蘇火の山まつりがそれぞれ行われ、久しぶりの祭りに会場は笑顔で溢れた。



「ワッショイ！」の掛け声で、31基の子ども樽みこしがオープニングを飾った。今回、一の宮地区から初めて古城4区子ども会が参加。(火の山)



プレイベントとして開催された熊本県太鼓連盟による災害チャリティ饗宴会。県内各地から太鼓の名手が集い演奏を披露した。(火の山)

商工会青年部によるヤマメつかみ取り大会。小雨が降る中、夢中でヤマメを追う子どもの姿に、周りから声援が飛んだ。(波野)

39団体が参加した総踊りでは、総勢約1,500人がやぐらを囲み踊りを披露。参加者や観客が一緒になって夏のひとときを楽しんだ。(火の山)

2013 発の花火が阿蘇の夜空を彩った。(火の山)

阿蘇の夏まつり

小倉虎舞保存会による虎舞公演。三段継ぎなどが披露されると、観客席から拍手と歓声が沸いた。(火の山)



オープニングイベント「子ども太鼓」(波野)



エンディングでは、ハート形の風船が夜空を舞い、祭りの最後を締めくくった。(火の山)



民間事業者に経営移譲することになった「阿蘇いこいの村」

「阿蘇いこいの村」の経営移譲先が決定
 (株)阿蘇アグリスクエアが10月1日から運営予定

阿

蘇市第三セクター経営検討委員会からの答申を受け、民間活力

導入による地域振興を図ることとなった「阿蘇いこいの村」について、広報誌などで経営移譲先を公募したところ、阿蘇市内で観光施設(宿泊施設、レストランなど)を営む3つの法人から応募がありました。

審査選定の結果、現在、はな阿蘇美の管理運営を行っている(株)アグリスクエアに経営移譲先が決まりました。

10月1日から新しい法人による運営が始まる予定です。

※本件に関する問い合わせは、観光まちづくり課(☎22・3174)まで。

【経営移譲先法人】

(法人名) 株式会社 阿蘇アグリスクエア
 (所在地) 阿蘇市小里 781

阿蘇の地下水を守るために。地下水保全審議会を設置 委員 11 人に委嘱状交付

地下水の採取には
許可・届出が必要です

平成25年4月1日から揚水機を設置し地下水を汲み上げて利用する場合は、市長への届出又は許可が必要です。地下水の採取を予定している人は、住環境課(☎22-3169)までご相談ください。

●届出が必要となる井戸

揚水機の吐出口断面積が6cm²超19cm²未満(直径約2.8cm超5cm未満)のもの

●許可が必要となる井戸

揚水機の吐出口断面積が19cm²(直径約5cm)を超えるもの

■注意事項

上記に関わらず、次に該当する井戸は届出や許可の必要はありません。

- ①農業のかんがいの用に使用する井戸
- ②個人又は集落で飲用及び生活雑用水に使用する井戸

※平成25年3月31日時点で、届出や許可が必要な井戸を利用されている事業者については、届出をしていただく必要がありますので、速やかに届出書の提出をお願いします。

(届出期間：9月末日まで)



審議会のようす。
 委員の任期は2年。

市

の地下水保全と水資源の有効活用を目的に、ことし4月に施行された地下水保全条例に基づき、『阿蘇市地下水保全審議会』を設置し7月23日、委員11人に委嘱状が交付されました。

本審議会は、学識経験者、市議会議員、市民代表者、関係事業者団体で構成されており、任期中は地下水採取の許可が必要な案件などを審議します。

市役所で行われた辞令交付式で、副会長を務める東海大学の椋田教授は、「熊本市内(下流域)の地下水は阿蘇の水で賄われていると言っても過言ではない。市民の認知度が低いので、広く周知して行政を中心に各団体と連携して水保全に取り組んでいくことが大事」と話していました。

豊肥線が1年1か月ぶりに全線復旧 JR 宮地駅で歓迎セレモニー



1



2

- 1 始発列車の出発式で号令をかける一日駅長（左から住吉義孝駅長、今村薫君、糸永茜さん、村上夏奈瀬さん）
- 2 大分方面に向かう列車に、駅構内から手を振り見送る参加者。列車内は、利用客や鉄道ファンで埋まった。てるてる坊主には「頑張ろう阿蘇」「元気になるように」などのメッセージが並んだ。

豪

雨災害の影響で、不通となっていた豊肥線の宮地―豊後竹田間（34.6キ）の復旧工事が完了し8月4日、約1年1か月ぶりに運行を再開しました。

JR宮地駅では始発列車の出発式や歓迎セレモニーが行われ、地元市民や観光関係者などが参加し、運行再開を祝いました。

JR宮地駅には、地元の子どもたちなどが復興のメッセージを記した黄色いてるてる坊主3千個がズラリと並び、歓迎ムードに花

を添えました。

午前7時3分の豊後竹田行き始発列車に合わせ、一日駅長となった今村薫君（宮地小6年）たちが「出発！」と号令をかけると、多くの乗客を乗せた列車が発進。出発式に参加した人は手を振って見送りました。

JR宮地駅がある地元商店街有志でつくる、古神繁栄会春山幸一会長は「一日も早い復興を願っていた。これを機に少しでも多くの人に来ていただき、街の活性化につなげたい」と期待を込めました。

宮地駅構内に災害復旧資料館開設



JR九州は、九州北部豪雨災害の被害状況や復旧工事内容を展示し、豊肥本線の重要性を認識してもらおうと、宮地駅構内に災害復旧資料館を開設しています。

資料館内には、被災状況などの写真パネルをはじめ、トンネルから流出したレールのモニュメントなどが展示されています。入場は無料です。ぜひご覧ください。



3



4

- 3 熊本方面からの九州横断特急1号の到着を、まどか学童クラブが和太鼓演奏で歓迎。
- 4 地域婦人会の皆さんなど黄色いTシャツを着て出迎えた。